

葉山町下水道事業

ウォーター P P P の 取 組

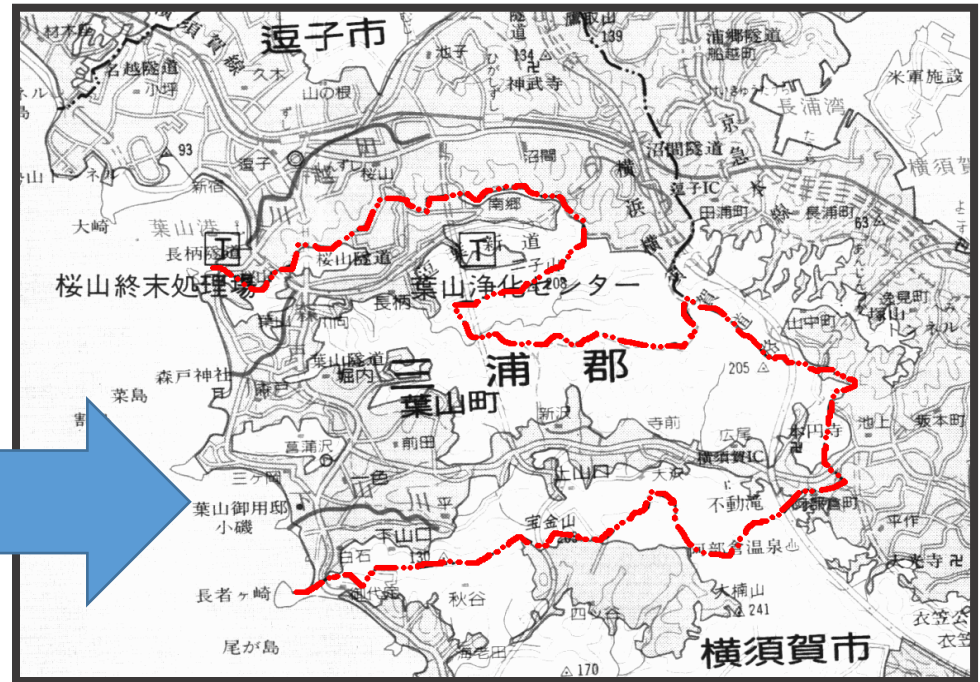
令和 7 年 2 月 2 5 日
葉山町環境部下水道課 秋本

目次

1. 葉山町の概要
2. 現状と課題
3. これまでの官民連携の取組
4. ウォーターPPP導入に向けた取組
5. 最後に

1 . 葉 山 町 の 概 要

葉山町の位置と概要



- ・面積 1, 704 ha
- ・人口 31, 813人 (R7.1.1現在)
- ・市街化区域 513 ha
- ・市街化調整区域 1, 191 ha
- ・誕生

明治22年 葉山村
 明治27年 葉山御用邸の築造
 大正14年 葉山町
 令和7年1月 町制100周年



→町制100周年を機に、葉山町と“うんこドリル”がコラボし、生活を支える下水道について楽しく学べる冊子「うんこドリル下水道」を制作しました！



令和6年3月1日発刊

葉山町といえば・・・



「日本ヨット発祥の地」



「人口比の犬の数」 県内 1 位



「健康な人が多い」 県内 1 位



「街の幸福度&住み続けたい街
ランキング2024」 首都圏版 1 位

※大東建託（株）居住満足度調査結果より

葉山町下水道事業の特徴①

葉山町の下水道は？



大部分の処理施設を地下に収容することで

葉山浄化センターの特徴②

葉山浄化センターのしくみ

浄化センターでは自然の浄化作用（微生物の力）を活性化させることで、汚水をきれいにし、再び川・海へ還しています。浄化工程で生じた汚泥は、浄化センターの外に運ばれ、一部はリサイクルされます。

標高が低い中継ポンプ場から、標高が高い浄化センターまで、4.7kmもの距離を圧送されます。

汚水

葉山浄化センターの大部分は、山の中に埋まっていて外からは見えないよ。日本でも珍しい下水処理場なんだ！

水処理施設

(トンネル内)

長さ 60m
高さ 17m

汚水調整池

流れてきた汚水を一時的にためて、水質を均一にします。

反応タンク

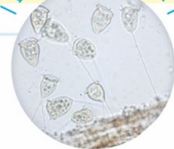
最終沈殿池

汚れを食べて重くなった微生物が沈み、きれいな水と分離します。

水をきれいにしてくれる微生物たち



顕微鏡でのぞいてみると？



1リットルあたり、数百万から数十億個の微生物が存在しています。



クマムシ



アメーバ



ツリガネムシ

曝気機

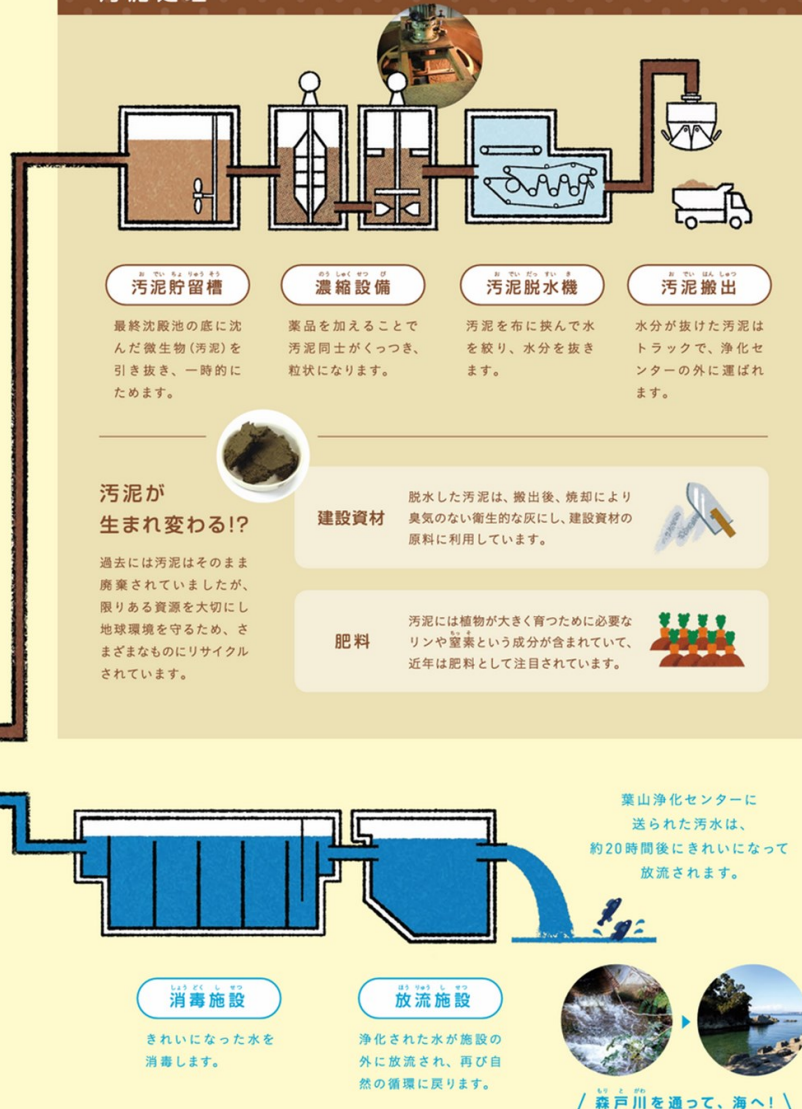
微生物も人間と同じで、生きるためには酸素が必要です。反応タンクにある曝気機で液中に酸素を与えることで、微生物は活発に活動できます。



このトンネルの下で何が起きている!?

葉山町下水道事業の特徴③

汚泥処理



もっと知ってほしい、下水道のはなし

1

微生物も寒いのが苦手!?

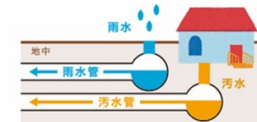
汚水をきれいにするために欠かせない微生物。実は、気温が高い夏期(26度前後)と、低い冬期(22度前後)を比べると、冬期は動きが鈍くなってしまおう。そのため、冬期はより多くの時間をかけてしっかりと水をきれいにしていくよ。



2

下水は汚水だけじゃない!?

下水とは、私たちが使った後の汚れた水(汚水)と、雨水を合わせた呼び名。下水を流す方法には、分流式と合流式という2つの方法があるよ。葉山町では「分流式」を採用。雨水は道路側溝からそのまま海に流し、汚水だけを浄化センターで浄化しているんだ。



3

下水に流してはいけないモノは?

- × 水に溶けないもの(ティッシュ、野菜くず、砂や泥など)
- × 天ぷら油やサラダ油
- × ガソリン、アルコール類

これらのものは、排水管や下水管の詰まり、浄化センターの機能を低下させてしまうことにもつながってしまうんだ。下水に流さず、適切に処理するようにしよう。



4

SDGs達成に大きな役割を果たしているよ!



汚水を浄化する仕組みがしっかりとできているから、安心してトイレが使えて、水道から安全な水が使えるんだね。

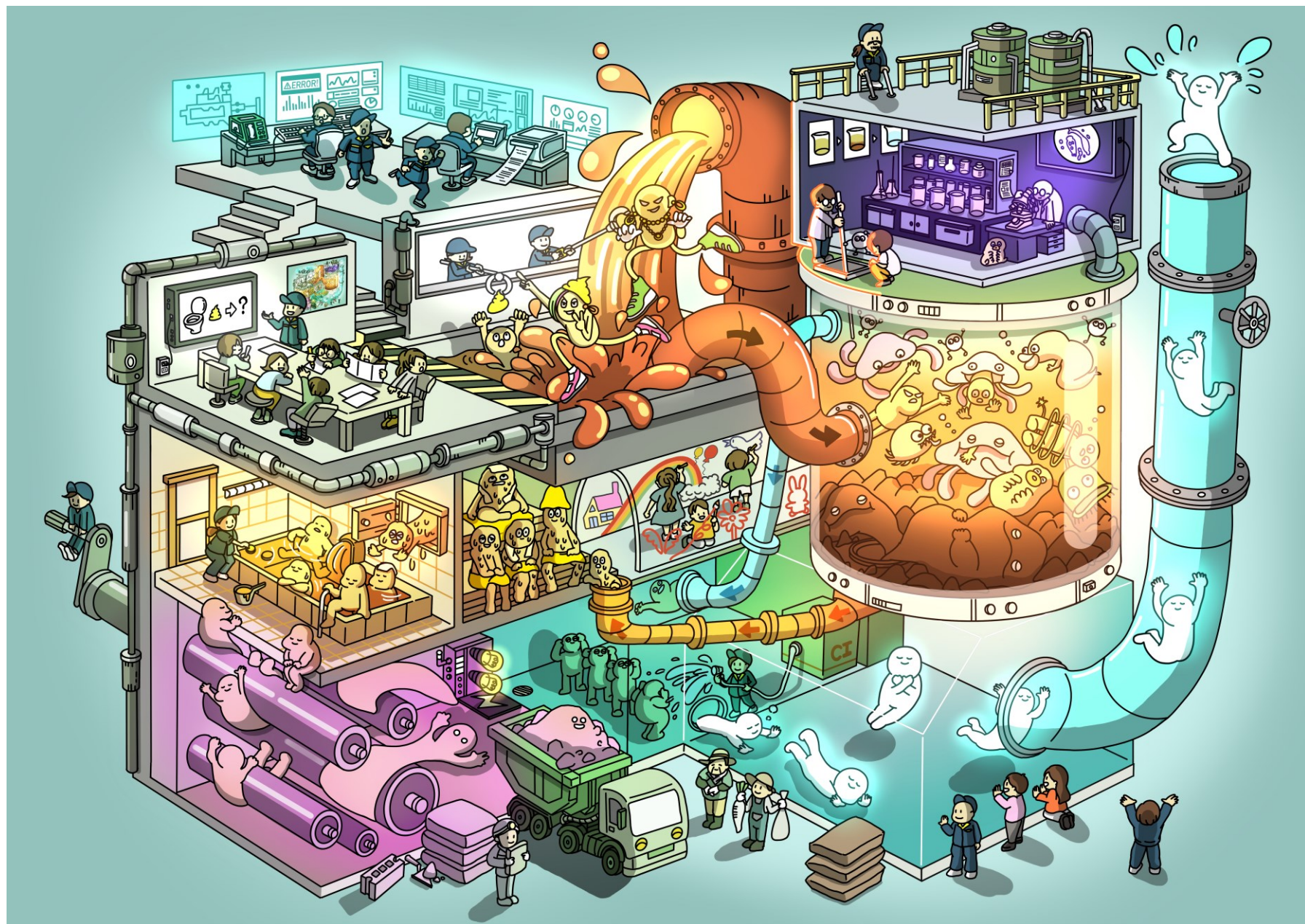


浄化処理で発生した汚泥は、リサイクルされているよ。肥料に生まれ変わって農業に役立てられることで環境緑化に貢献しているんだ。



浄化センターで汚水を浄化して再び川に放流することで、川や海の環境を守り、そこに住む生物を守ることにもつながるよ。

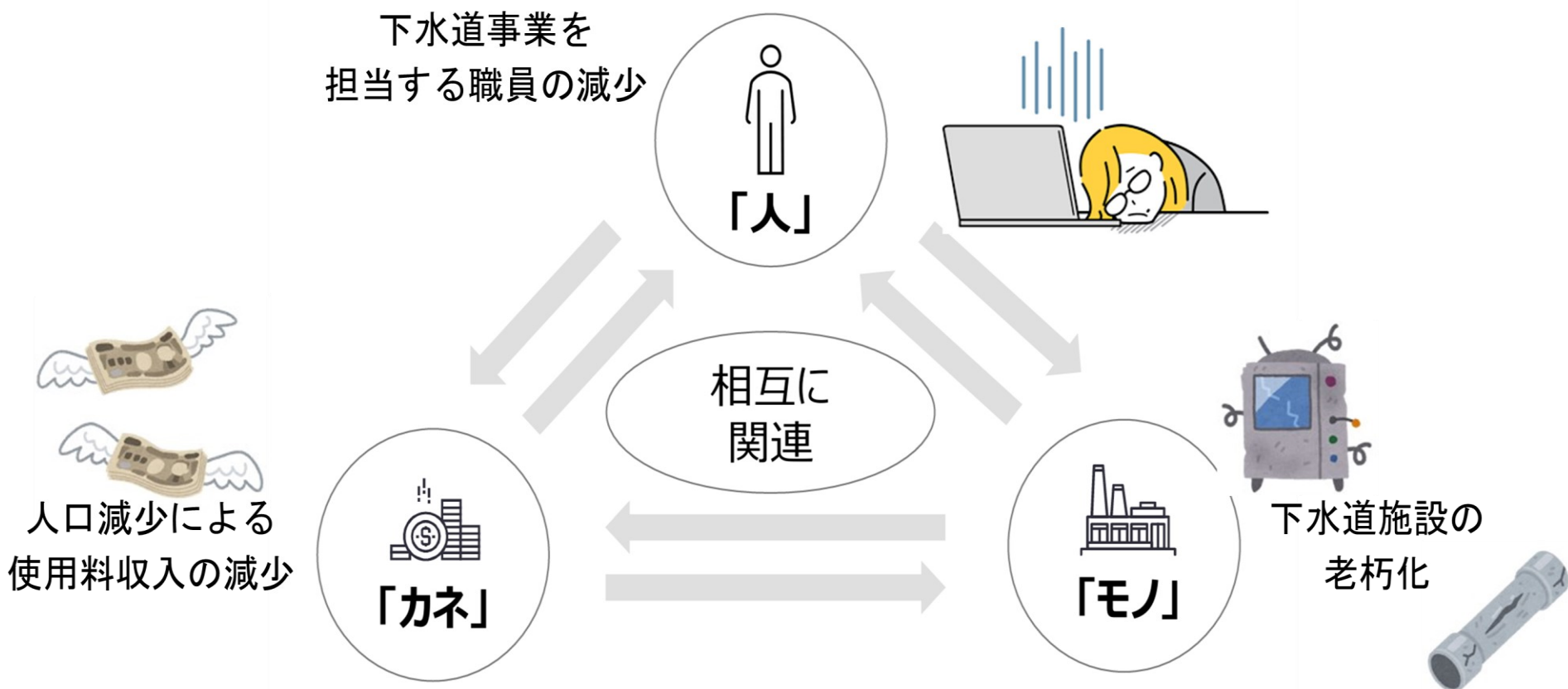
葉山町下水道事業の特徴④



2 . 現 状 と 課 題

葉山町下水道事業の現状

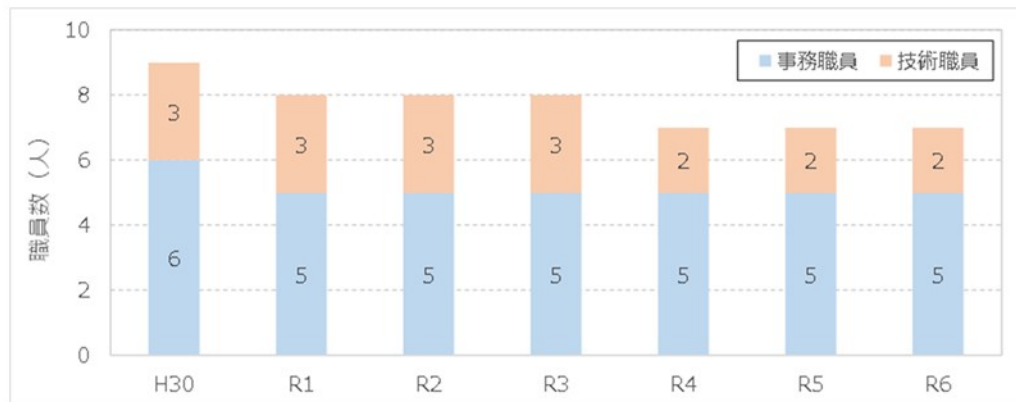
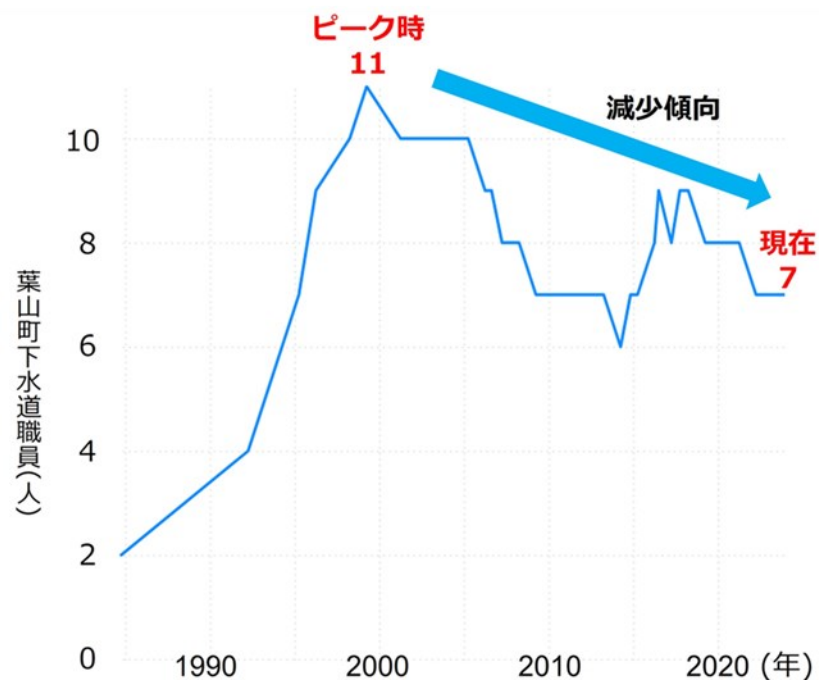
「人」・「モノ」・「カネ」の三重苦の状況に直面しており、今後のどのようにして持続していくかの岐路に立っています。



葉山町下水道事業の課題【人】

- 本町の下水道職員は平成11（1999）年の11人をピークに年々減少傾向にあり、令和6年4月1日の職員数は7名となっています。安定した公共下水道事業を継続するためには、今後の修繕改築等に向けて業務執行体制の強化が必須ですが、本町全体の状況を踏まえると、職員の増員は難しい状況です。

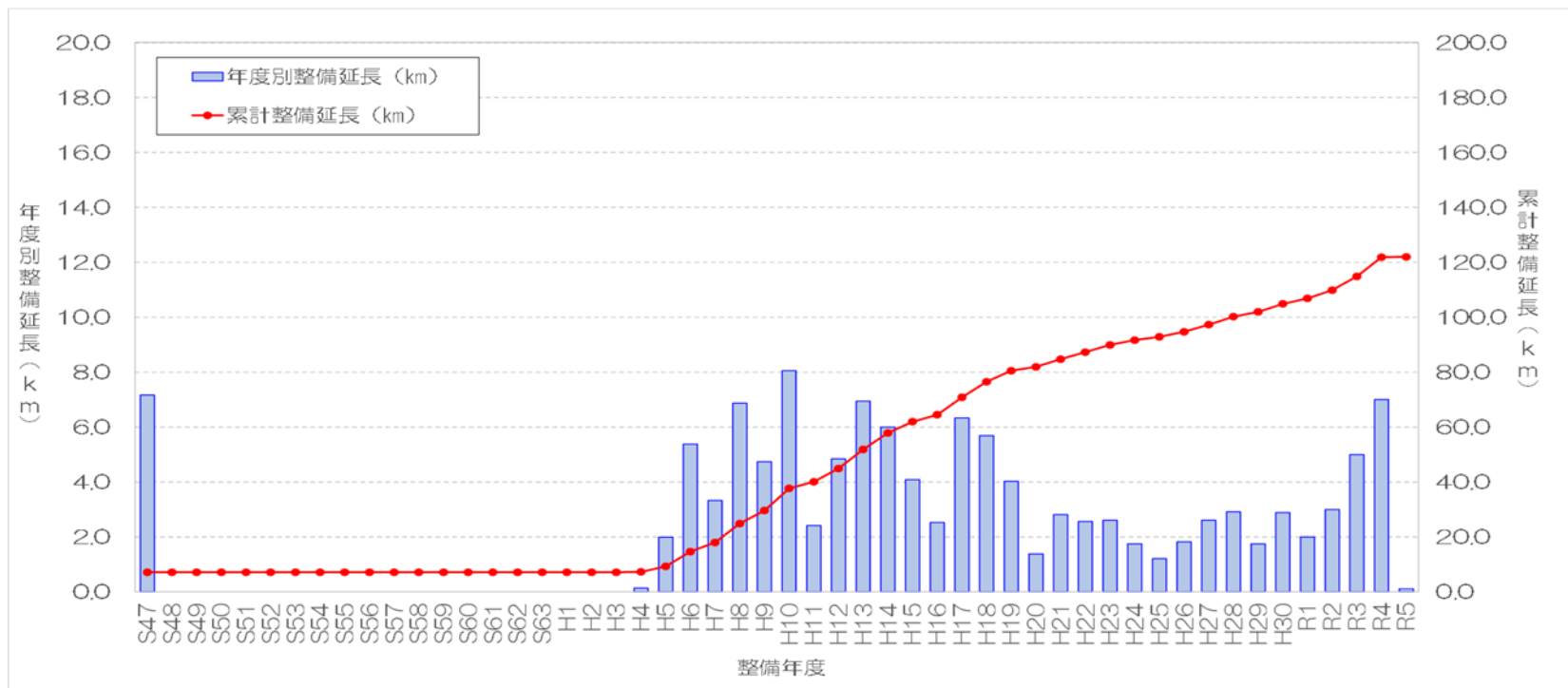
職員数の推移



葉山町下水道事業の課題【モノ（管渠）】

- ・管きよの標準耐用年数は、50年。下水道事業の供用開始時（1999年）に整備された管きよは、耐用年数を迎えておらず、葉山町の管きよは比較的新しいといえます。しかし、一部下水道事業の供用開始前に整備された管きよがあり、これらは整備から50年以上経過している状況です。
- ・管きよの整備は平成6～平成10年度にピークを迎え、今後、経年劣化による管きよの破損、そのことに起因する道路陥没などの老朽化の問題が顕在化する前に、適切な維持管理及び計画的な修繕や改築・更新を行う必要があります。

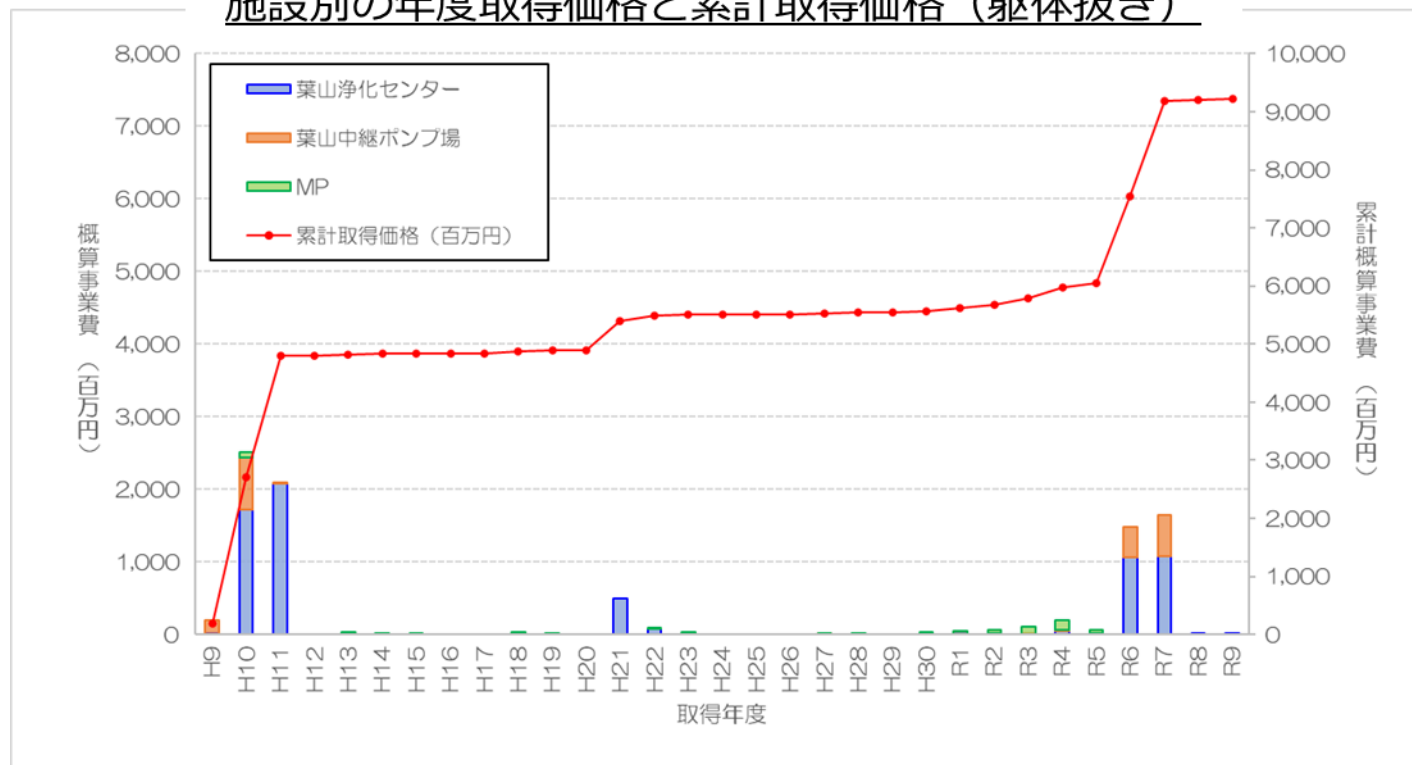
施工年度別管きよ延長



葉山町下水道事業の課題【モノ（処理場・ポンプ場）】

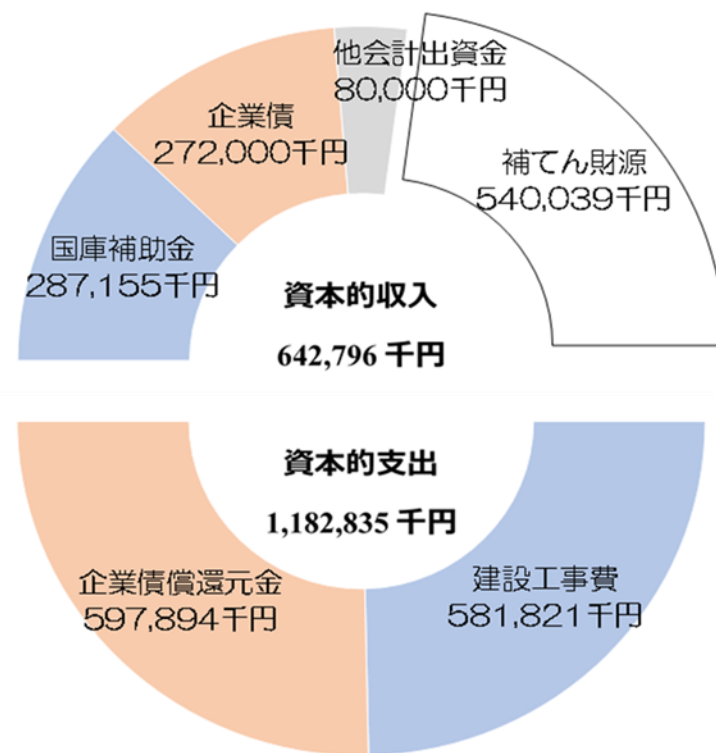
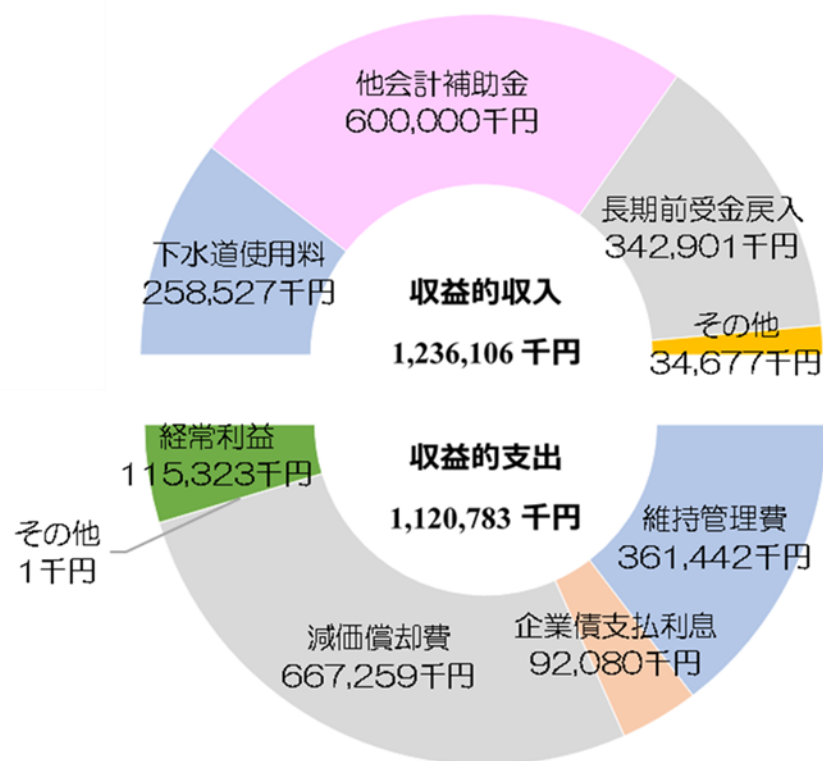
- ・ 葉山浄化センター及び葉山中継ポンプ場内の機械等設備の標準耐用年数は15年。下水道事業の供用開始時（1999年）から20年以上を経過している状況です。管きよと異なり、既に老朽化の問題が発生しており、早急な修繕や改築等が必要な状況です。

施設別の年度取得価格と累計取得価格（躯体抜き）



葉山町下水道事業の課題【カネ①】

- 令和5年度の収益的収支は、経常利益が計上でき黒字となっていますが、収入の主たるものは他会計補助金（一般会計からの繰入金）で、全体の48.5%を占めています。下水道事業の独立採算の観点では、一般会計からの繰入金に依存した体制の解消に向けて取り組むことが重要となります。



葉山町下水道事業の課題【カネ②】

- ・ 葉山町では2011年をピークに人口が減少傾向になっており、今後もさらなる人口減少が見込まれています。そのため料金の収入が減少することが予測されます。
- ・ しかし、改築や更新の費用は増加する見込みであり、財源不足が懸念されます。

管きよ・処理場の修繕・改築の業務量は
今後増大する見込み

業務量にあわせて支出も増大

2050年の人口はピーク時の2011年から
約18%の減少見込み(△5,810人)

下水道料金収入も人口減少にあわせて減少



葉山町下水道事業の解決策

このような状況下で、住民サービスをさらに向上していくためには何ができるのか



限られた予算・人員のなかで持続的な下水道事業の運営には、官民連携（PPP/PFI）事業を積極的に活用し、事業の効率化の検討が必要不可欠



葉山町



民間事業者

官民連携による
執行体制の確保



相互に
関連



業務効率化による
支出の削減



民間の創意工夫による
効果的な投資



3.これまでの官民連携の取組

官民連携（DB方式）による下水道未普及解消事業

取組の概要

平成27年度に葉山町污水处理施設整備構想（アクションプラン）を策定し、令和7年度までに全体計画区域513haの概成を達成することを目指した。未整備地域を期間中に整備するには、従来の倍以上のペースでの整備が求められるなどの課題に対応する必要があるため、官民連携（DB方式）による下水道未普及解消事業を実施した。

◆背景

- 下水道供用開始当初と比較すると下水道職員数は減少している中、アクションプランの計画目標年度である令和7年度までに事業を完了するためには、これまで以上の整備が必要
- 過去の整備実績（整備面積約9.0ha/年）を踏まえると、10年概成に向けた今後の整備（約18.0ha/年）を確実に実施することが困難
- 計画目標年度までに下水道整備を完了させる場合、これまで以上の投資が必要
- これらの課題を解決するため、DB方式を導入することとした。

◆具体的内容

- DB方式の導入により民間ノウハウを積極採用することで、限られた人的リソースと財源の中で早期整備・事業費低減を達成した。

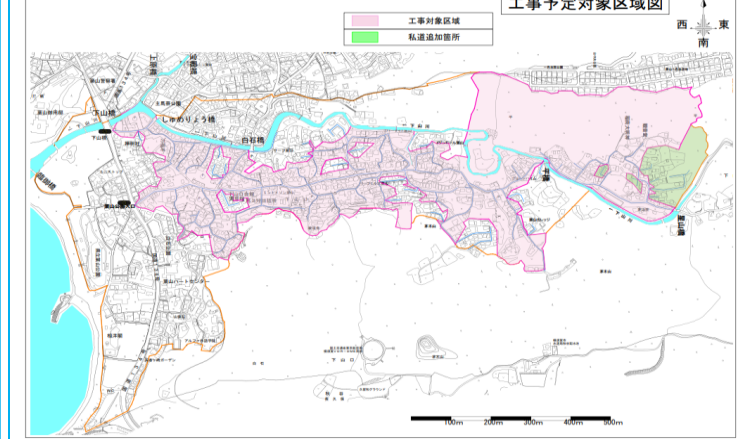
◆効果

- ①整備面積 ➤ 従来発注よりも 3ha（40ha→43ha）拡大
- ②事業期間 ➤ 従来発注よりも 2年間（7年間→5年間）短縮
- ③事業コスト ➤ 従来発注よりも 約4億円（16億円→12億円）削減

取組のポイント

- 地元建設企業との交渉及び庁内の関係部署との調整を積極的に進め、お互いの考えが共有できたことで、調整後の事業実施は円滑に進んだ。
- DBを実施した相乗効果として、長期的な事業実施に伴い、住民の下水道整備に対する興味関心が高まり、私道区域の整備も同時に進めることができた。

DB実施区域図



取組のスケジュール

- 平成27年度末 葉山町污水处理施設整備構想（アクションプラン）策定
- 平成28年度PPP/PFI導入可能性調査実施
- 平成29年度事業者選定実施
- 平成30年度～令和4年度の5カ年で整備実施

項 目	従来方式	DB方式
整 備 面 積	40ha	43ha (+3ha: 私道区域)
事 業 期 間	7年間 (設計2年・施工5年)	5年間 (設計1年・施工4年)
事 業 コ ス ト	約16億円	約12億円

今後の展望

- 令和7年度までに管渠新設整備が概ね完了予定
- 今後の更新、維持管理等に適切に対応し、厳しい財政状況下においても安定した下水道事業の運営を可能とするため、ウォーターPPP（管理更新一体マネジメント）の活用を積極的に検討する。

葉山浄化センター等整備・運営事業【DB+包括委託】

● 取組の概要

葉山浄化センター等の機械電気設備の増設及び中央監視設備の改築も併せて設計施工一括【DB】発注で行い、維持管理については、包括的民間委託を導入しました。

◆背景

- ・未普及地域解消に伴い浄化センター及び中継ポンプ場の能力増強が必要
- ・面整備・老朽化対策・増設事業と事業が集中するため、建設改良費が直近数年と比較して約2倍となるため、投資コストの縮減が必要
- ・維持管理業務については、仕様に基づく業務形態であるため、民側の創意工夫が生まれず、官側の事務手続きも煩雑であり、迅速かつ効果的な運営ができていない状況
- ・これらの課題を解決するため、DB方式及び包括的民間委託を導入することとした。

◆具体的内容

- ・葉山浄化センター4系列の機械電気設備及び葉山中継ポンプ場汚水ポンプの増設並びに経年劣化が著しい浄化センター及び中継ポンプ場等を集中・一元監視している中央監視設備の改築も併せて設計施工一括【DB】発注として行うことで、建設コストの縮減効果が生じる。また、包括的民間委託を導入することにより、複数の委託を包含することができるため、業務がより効率的かつ効果的になり、維持管理コストの縮減効果も生じる。

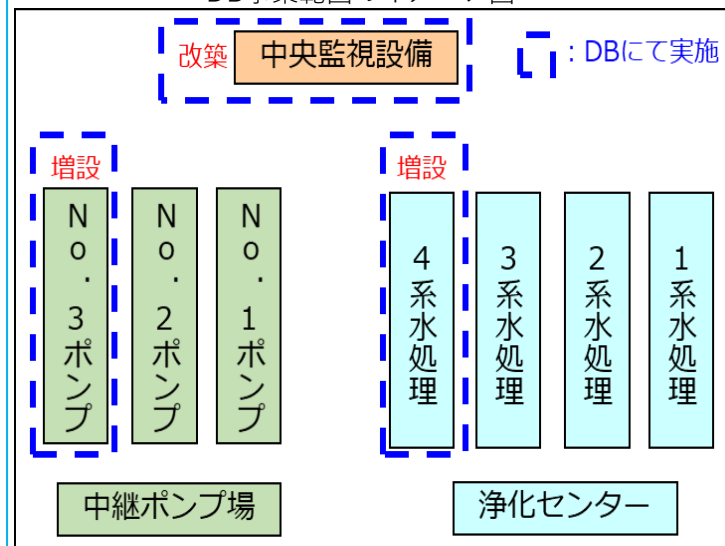
◆効果（現在進行中であるため、契約時点の内容に基づいた効果とする）

- ①事業期間 ▶ 従来発注よりも2年間短縮
- ②事業コスト ▶ 従来発注よりも約2億円削減
- ③維持管理コスト ▶ 従来発注よりも約3千万円削減

● 取組のポイント

- ・増設工事に改築工事を含めたDBで実施及び包括的民間委託を一括して発注したことにより、適切かつ着実な施工計画が設定でき、施工箇所の調整等に伴う工期遅延等のリスクを未然に防ぐことができた。

DB事業範囲のイメージ図



● 取組のスケジュール

- ・令和3年度PPP/PFI導入可能性調査実施
- ・令和4年度事業者選定を実施
- ・DB : R5.5.8 ~ R7.3.31
- ・包括委託 : R5.5.8 ~ R9.3.31

● 今後の展望

- ・今後の改築更新、維持管理等に適切に対応し、厳しい財政状況下においても安定した下水道事業の運営を可能とするため、ウォーターP P P（コンセッション事業）の活用を積極的に検討する。

４．ウォーターＰＰＰ導入に向けた取組

葉山町下水道ウォーターPPP事業の概要

- 葉山町では、葉山浄化センター、葉山中継ポンプ場、これらを結ぶ幹線及びマンホールポンプについて、維持管理、改築・更新、運営を一体的に実施するコンセッション方式の導入検討を継続して進めている。また、管路施設については、維持管理、改築・更新の対応を一体的に実施する管理・更新一体マネジメント方式を導入予定であり、葉山町が所有するすべての下水道施設にウォーターPPPを導入予定。
- 本町では、コンセッション方式の導入を令和9年度から、管理・更新一体マネジメント方式の導入を令和8年度から実施予定

葉山町下水道事業ウォーターPPP導入事業スケジュール

方式	対象施設	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和10年度 以降
コンセッション方式	①葉山浄化センター ②葉山中継ポンプ場 ③①・②を結ぶ幹線 ④マンホールポンプ	導入可能性調査 実施方針（案） の作成	実施方針 公募書類 の作成	事業者選定	事業開始	
管理・更新一体 マネジメント方式	○管路施設	導入可能性調査 各種情報整理 実施方針 公募書類の作成	事業者選定	事業開始		

サウンディング : コンセッション（R6. 8）、管理・更新一体マネジメント（R6. 5）
実施方針（案）の公表予定 : コンセッション（R7. 3）、管理・更新一体マネジメント（R6.12）
公募開始の予定 : コンセッション（R7.10）、管理・更新一体マネジメント（R7. 4）

ウォーターPPP導入に期待する効果

- ◆ 契約期間が長期（10年、20年）となり、スケールメリットが大きく民間事業者のノウハウが発揮される
- ◆ 民間事業者による自由度の高い運営が可能となり、低廉かつ良好なサービスを楽しむことができる
- ◆ 各取組が一体化、発注・契約・管理等が一元化し、町・民間事業者双方にとって、事務負担の軽減
- ◆ 技術職員の高齢化や減少に対応した技術承継の円滑化、事業継続に向けた体制の維持・強化等を促進
- ◆ 民間事業者の技術力や投資ノウハウを活かした老朽化・耐震化対策を促進

葉山町下水道ウォーターPPP導入による達成目標

○処理場施設へのコンセッション方式(レベル4)及び管路施設への管理・更新一体マネジメント方式(レベル3.5)の導入にあたり、ヒト・モノ・カネの以下の観点についての解決を期待している。

分類	課題	現状及び課題の内容	レベル4で目指すこと	レベル3.5で目指すこと
モノ (施設)	管路	3団地の下水道事業への移管により、50年近く経過する管路施設の調査・改築が急務	—	3団地の点検・調査結果に基づく改築の実施 - 点検・調査の実施と実施結果に基づく改築の実施
	施設	供用開始から20年以上経過しており、機械設備が耐用年数(15年)を超えていることから、早急な修繕・改築が必要	運営権者に、点検・調査の実施～改築更新計画策定～改築更新の実施までを委ね、公共調達の制約を受けない修繕・改築を実現	—
	異常時及び修繕対応	- 個別対応ごとに修繕等を発注(管路) 130万円以上の修繕は包括委託業務外(施設)	- 個別委託や直営業務を可能な限り包括化し、運営権者に委ねる - 地元企業との連携等により、災害時の体制づくりに期待	個別委託や直営業務を可能な限り包括化し、事業者委ねる
ヒト (組織)	人員確保	- 職員は5年で2名減 - 管路対応技術の継承・確保	民間のマネジメント力を活用し、経営判断や計画策定にあたっての事業運営体制の補完・強化	- マニュアル・ツール整備 - 官民役割分担の検討、委託範囲の拡大
カネ (財務)	費用縮減	処理場等の改築更新費用増大のため、管路施設は後回し	運営権者の収入たる利用料金収入の範囲内で事業運営させることで、民間ノウハウを最大限活用した効率化・費用縮減に期待。	- 委託・工事のロット拡大 - 中長期的見通し検討(ストマネ、経営戦略等への反映)
	財源確保	R9以降の污水管更新に関する交付要件への対応が必要	—	ウォーターPPPの導入により交付金を活用

→ 住民サービスの向上(=住民満足度)

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル3.5）事業の対象業務

主要業務	業務の概要
維持管理業務	①計画的維持管理業務 ・ストックマネジメント点検・調査計画を踏まえた点検・調査、法定点検、巡視、清掃・修繕 ②住民対応等業務 ・住民対応（現地確認・調査対応）、緊急対応（清掃等詰まり処理、修繕） ③維持管理支援業務 ・次期ストックマネジメント点検・調査計画作成支援及び実施
改築業務	①改築支援業務 ・ストックマネジメント修繕・改築計画策定支援、事業化スケジュール提案、補助要望資料等作成、発注図書作成、その他必要な事項 ②詳細設計業務 ③改築工事業務 ④工事監理業務
統括管理業務	①統括管理業務 ・各種業務のマネジメント、業務計画書及び報告書の作成、委託業務及び工事の発注、技術管理・危機管理・環境対策・地域貢献、その他必要な事項 ②情報管理業務 ③セルフモニタリング ④その他関連業務
付帯事業	【提案による】義務事業に追加し一体的に行うことにより効用が発揮される事業
任意事業	【提案による】事業に係る全ての費用を事業者自らの負担で行う独立採算の事業

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル3.5）事業の概要

○葉山町下水道事業におけるW-PPPの4要件の充足の考え方

- 町の現在の状況をW-PPPの4要件に照らすと以下のような状況であり、要件毎に対応案を以下のように想定しています。

要件	要件概要（内閣府HP）	町の現在の状況	対応案
①長期契約	契約期間は、企業の参画意欲、地方公共団体の取組易さ、スケールメリット、投資効果の発現、雇用の安定、人材育成等を総合的に勘案し、原則10年	・維持管理の委託は過去にほぼ未実施。 ・3団地の下水道への接続に伴い、維持管理や改築更新に関する業務の増加が懸念	【原則に従い10年】 長期契約のため、物価変動によるスライド条項は契約書に規定予定。
②性能発注	性能発注を原則とする。ただし、管路については、移行措置として、仕様発注から開始し、詳細調査や更新等を実施した箇所から段階的に性能発注に移行していくことも可能	・維持管理の委託は過去にほぼ未実施のため、実績と成果の因果関係や定量的なデータがほぼない。	【移行措置を採用】 事業開始当初はリスクの少ない性能規定とし、3～5年程度の移行期間までに点検調査のデータを蓄積し、目標値の設定などの性能規定にレベルアップ
③維持管理と更新の一体マネジメント	維持管理と更新を一体的に最適化するための方式として、維持管理と更新を一体的に実施する「更新実施型」と、更新計画案の策定やコンストラクションマネジメント（CM）により地方公共団体の更新を支援する「更新支援型」を基本	・R2年度AM計画で管路SM計画（点検・調査）は策定していたが緊急度が低く、未実施。 ・現在SM計画見直し中。	【更新支援型の要素（更新計画案の作成）を含む更新実施型】 ・点検・調査の実施結果を踏まえて改築更新計画を策定（町の現委託業務） ・3団地の管路は更新を実施
④プロフィットシェア	事業開始後もライフサイクルコスト削減の提案を促進するためプロフィットシェアの仕組みを導入すること。	・プロフィットシェアの仕組みを導入した契約等は現時点ではなし。	【導入内容を検討】 費用削減の効果を期待しつつ削減分を精算しないことや削減分を官民でシェアすることでの対応

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル3.5）事業の概要

○葉山町下水道事業における性能発注の考え方

- 維持管理の点検調査のデータが十分でないことから、事業開始当初から目標値の設定等の性能規定の要件化は、事業者に過度なリスクを転嫁するものと理解
- 事業開始当初は、リスクの少ない性能規定とし、3～5年程度の移行期間までに点検調査のデータを蓄積し、目標値の設定などの性能規定にレベルアップしていくことを想定。

リスク分担 易

難

性能規定

人員、時期、機器、方法等は受託者に委ねた上で適切に法定の保守点検（下水道法施行令第5条の12）を実施すること

業務による効果を示す指標を定め、受託者の努力目標として活用することで下水道サービスの水準を向上させること

管路の適切な流下能力を確保（陥没・閉塞等による溢水発生等、直接的に住民生活に影響を与える事象が発生しない状態を保つよう努めること）

移行期間前
(事業開始当初～)

事業開始当初は、「実施内容」を発注者が規定し、「実施方法」を受注者に委ねることを想定

移行期間後

移行期間にて、点検調査を実施し管路の状況やリスクを把握。その後発注者・受注者の相互の合意の基、目標値（☞次頁参照）を設定

移行期間（事業開始3～5年間を目安）後に性能規定をレベルアップ

国土交通省「下水道分野におけるウォーターPPPガイドライン第1.0版」を元に作成

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル3.5）事業の概要

○葉山町下水道事業における性能規定の例示

- 要求水準書（案）において、管路の維持管理と改築に関連した以下の要求水準（性能規定）を規定している。

【維持管理基準、改築実施基準】

- 事業者は業務指標（目標項目）例を参考に、事業期間中（事業開始から2～3年後）に町の承諾を得て目標項目及び目標基準値を設定し、セルフモニタリングにより達成状況の確認を行うものとする。
- 業務指標や業績指標として、より適切な目標項目及び目標基準値の設定が可能な場合は、事業者もしくは町の提案により、互いの承諾を得て採用し設定する。なお、目標項目及び目標基準値の設定は、2年経過毎に事業者と町で確認協議し見直しを検討するものとする。

●管渠の維持管理に関する業務指標（PI）例

業務指標（PI）	備考
住民等からの問合せに対する初動までの駆け付け時間	
住民等からの問合せに対する解決するまでの見込み時間の周知時間	

●管渠の改築に関する業務指標（PI）例

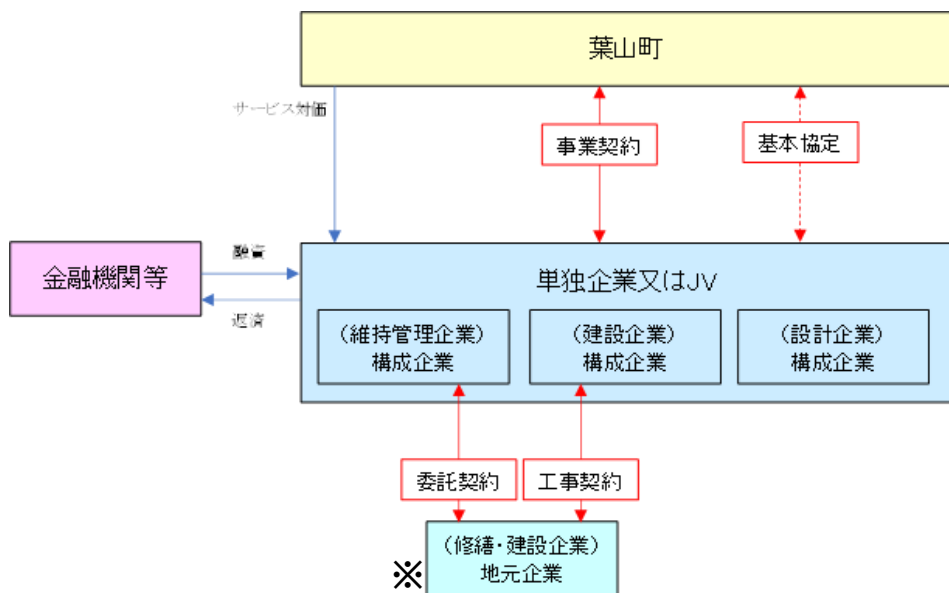
業務指標（PI）	単位	健全度予測式による現在の推定値	算出方法
健全な管渠の割合（緊急度Ⅲ、健全）	%	90	ストックマネジメントの評価

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル3.5）事業の概要

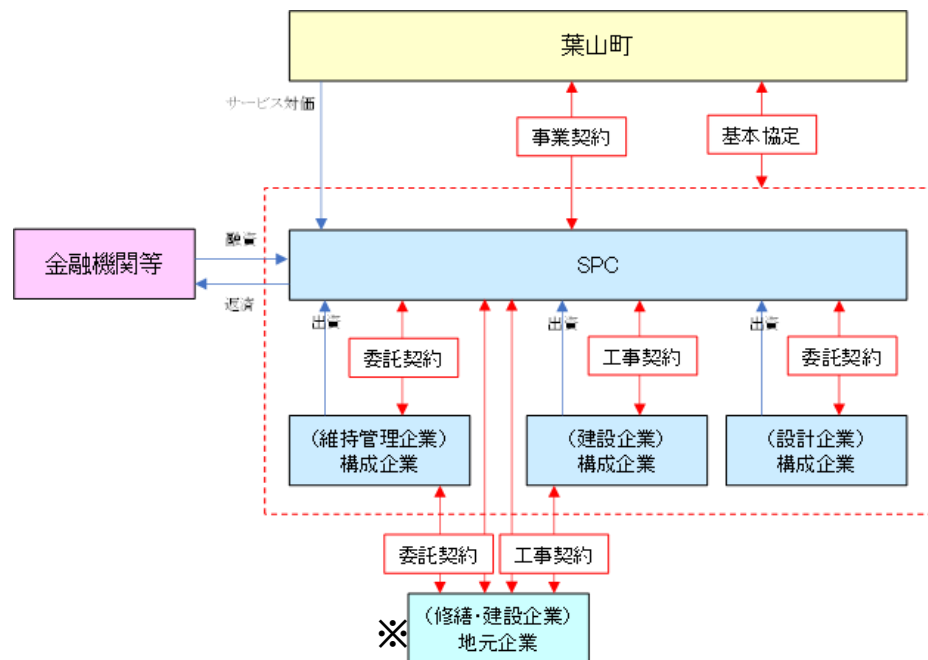
○葉山町下水道事業におけるW-PPP（レベル3.5）事業スキーム

- 対象施設・業務を踏まえ、以下のスキームにて事業実施を想定。
- PFI法に基づくものであり、更新支援型の要素を含んだ更新実施型の管理・更新一体マネジメント方式（レベル3.5）とする。
- 令和8年度を事業開始とし、事業期間はW-PPPの要件にあわせて10年間とする。
【事業期間】10年間（R8.4～R18.3）

● 単独又はJVの場合



● SPCの場合



※ 修繕や工事を実施する地元企業は応募グループに含めないものとし、修繕や工事業務は単独企業、JV、SPCもしくは構成企業からできる限り地元企業に委託するものとする。

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル4.0）事業の対象業務

- 義務事業（経営に関する業務、維持管理に関する業務、改築に関する業務）及び
付帯事業、任意事業を設定

主要業務	業務の概要
経営に関する業務	・運営事業計画作成、利用料金の収受、財務管理、セルフモニタリング、情報管理、安全・危機管理、技術管理、環境対策、地域貢献、その他必要な事項
維持管理に関する業務	・運転管理業務、保全管理業務、その他維持管理業務
改築に関する業務	・改築支援、設計、工事、工事監督、その他関連事項
付帯事業	【提案による】義務事業に追加し一体的に行うことにより効用が発揮される事業
任意事業	【提案による】事業に係る全ての費用を事業者自らの負担で行う独立採算の事業

- 事業を行うに当たり想定される工種は下表のとおり

対象施設	対象業務	調査	設計	工事（工事監理含む）						
				土木		建築		建築 附帯	機械	電気
				躯体	防食	躯体	仕上防水			
処理場・ポンプ場	維持管理	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	改築	○	○	×	○	×	○	○	○	○
マンホールポンプ 設備	維持管理	○	×	×	×	－	－	－	○	○
	改築	○	○	×	×	－	－	－	○	○
圧送管	維持管理	○	×	○	○	－	－	－	－	－

○：対象、×：対象外、－：非保有施設

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル4）事業の概要

○町の処理場等施設にコンセッション方式（レベル4）を導入する。

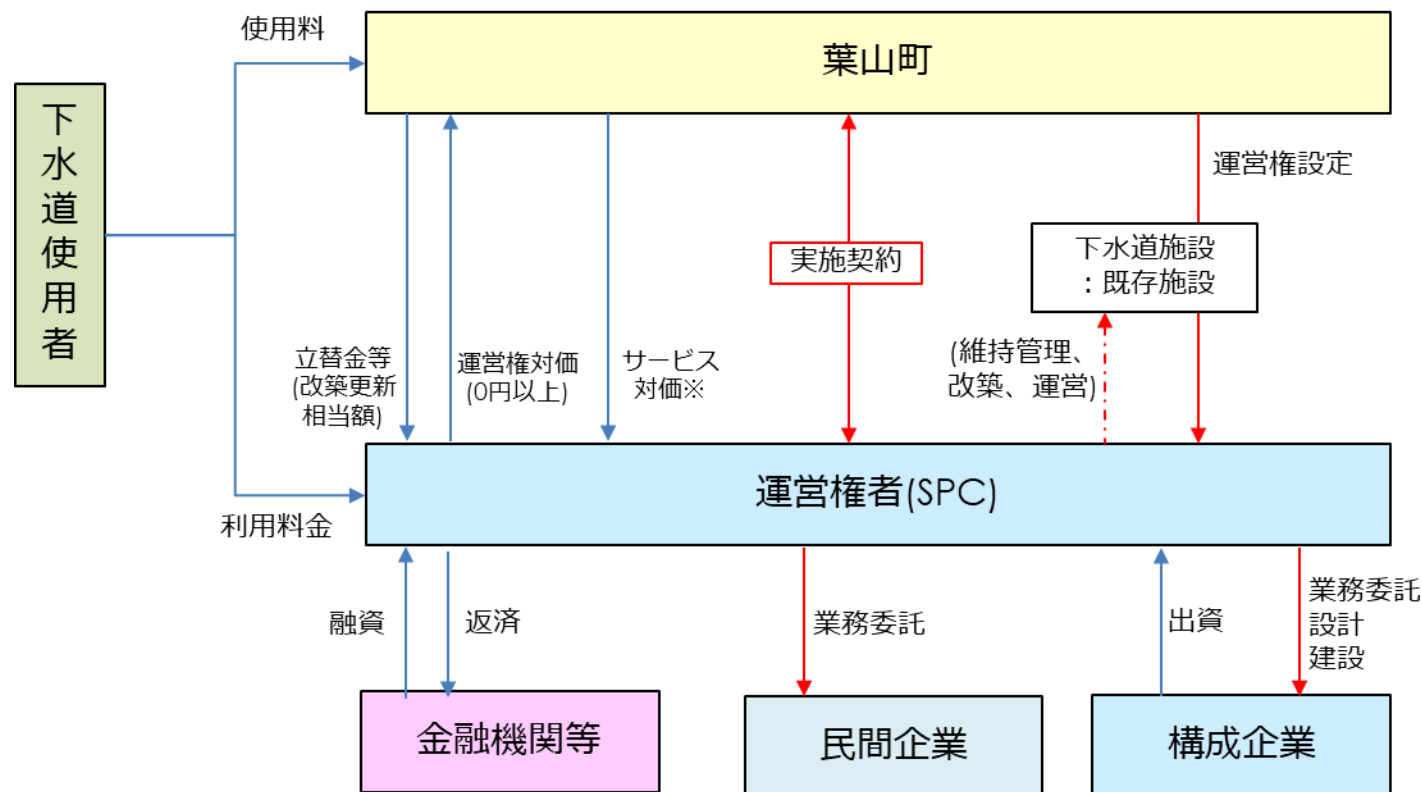
- コンセッションのためW-PPP(管理・更新一体マネジメント方式)の4要件を充足する必要はないと理解しているが、コンセッションもW-PPPに含まれることから、参考までに4要件の枠組みを用いて本事業の対応案を整理。

要件	要件概要（内閣府HP）※参考	町の現在の状況	対応案
①長期契約	契約期間は、企業の参画意欲、地方公共団体の取組易さ、スケールメリット、投資効果の発現、雇用の安定、人材育成等を総合的に勘案し、原則10年	・浄化センター、ポンプ場の各種設備の設計・建設業務及び維持管理業務をDB+包括的民間委託方式で実施中(令和5年～令和9年)	【契約期間：20年】 ・投資効果の発現と長期契約（30年超）のリスクのバランスを考え、20年と設定。 ・オプションとして、最大で10年間程度の延長を可能とする予定。
②性能発注	性能発注を原則とする。ただし、管路については、移行措置として、仕様発注から開始し、詳細調査や更新等を実施した箇所から段階的に性能発注に移行していくことも可能	・現在履行中の包括的民間委託方式（レベル2.5）では性能発注により運転管理、保守点検及びユーティリティ調達業務等を委託している。	【性能発注】 ・維持管理から改築まで、原則として性能発注とし、具体的実施方法は運営権者の自由裁量に任せることとする。
③維持管理と更新の一体マネジメント	維持管理と更新を一体的に最適化するための方式として、維持管理と更新を一体的に実施する「更新実施型」と、更新計画案の策定やコンストラクションマネジメント（CM）により地方公共団体の更新を支援する「更新支援型」を基本	・R2年度AM計画の計画に基づき調査・改築を実施中。 ・現在SM計画見直し中。	【維持管理と更新を一体的に実施】 ・運営権者は、点検・調査の実施結果を踏まえて修繕・改築計画案を策定し、改築を実施
④プロフィットシェア	事業開始後もライフサイクルコスト削減の提案を促進するためプロフィットシェアの仕組みを導入すること。	・プロフィットシェアの仕組みを導入した契約等は現時点ではなし。	【プロフィットシェアの設定なし】 ・コンセッションにおいては、プロフィットシェアの設定は任意 ・運営権者の創意工夫は全て運営権者の利益になると判断し、プロフィットシェアの設定なし

葉山町下水道ウォーターPPP（レベル4）事業の概要

○葉山町下水道事業におけるW-PPP（レベル4）事業スキーム

- 対象施設・業務を踏まえ、以下のスキームにて事業実施を想定。
- コンセッション方式（レベル4）とする。
- 料金徴収は神奈川県企業庁に事務を委託し、水道料金と一体で徴収予定。
（コンセッション事業前と変化なし）



※事業開始初期に利用料金が不足する場合、町は維持管理に関する費用の一部をサービス対価として負担する。

葉山町下水道ウォーターPPP事業開始までのスケジュール

〇レベル3.5

- 令和6年12月に実施方針（案）を公表し、令和7年4月に募集要項等を公表、10月に提案審査書類を受付、12月に優先交渉権者が決定予定である。

〇レベル4

- 令和7年3月に実施方針（案）を公表し、10月に募集要項等を公表、令和8年4月に提案審査書類を受付、6月に優先交渉権者が決定予定である。

: コンセッション
 : 管路レベル3.5(参考)

	R6年度						R7年度												R8年度												R9年度		
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
実施方針案公表																																	
特定事業の選定・公募																																	
募集要項等公表																																	
参加資格確認受付																																	
参加資格確認結果																																	
競争的対話																																	
提案審査書類受付																																	
プレゼン実施																																	
優先交渉権者決定																																	
基本協定締結																																	
運営権設定、実施契約締結																																	
引継ぎ																																	
事業開始																																	

5 . 最 後 に

- ・ ウォーターPPP検討したいけど、どうすれば良いのだろう。
- ・ うちの自治体で導入するメリットがあるのだろうか。
- ・ やる必要はわかるが、庁内調整をどう進めれば良いか etc



- 悩んだら、まず先行自治体等にお話を聞いてみてください！
自治体同士の横の繋がり**の強さこそ下水道業界の最大の魅力だと勝手に感じております！**
- ウォーターPPP導入に向けて悩んでる！！等の意志表示をオープンにしてください！
頭の中で悩んでいるだけでは民間事業者もアプローチをして良いのかどうか分かりません。そのため、しっかりと意思表示を明確にすることで民間事業者も提案等を行うことができるようになります！

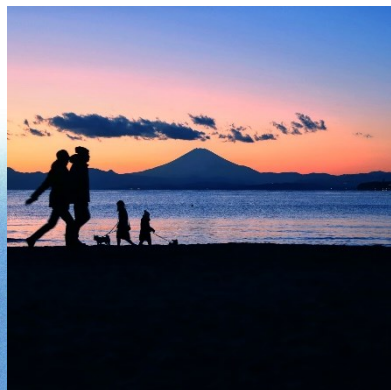
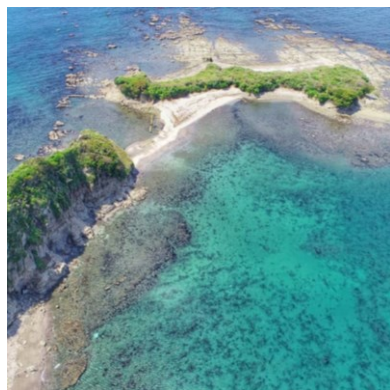
当方でお力になれることがあれば、お気軽にご連絡ください！

・ 連絡先

葉山町環境部下水道課 秋本

gesuidou@hayama.kanagawa.jp

046-876-1111 内線363



ご清聴いただきありがとうございました。

